

芹沢銈介のいろは一金子量重コレクション

(Text)tiles by SERIZAWA KEISUKE, from the Kaneko Kazushige Collection

2016年3月5日(土)～5月8日(日)

- アジア民族造形研究の先達である金子量重氏から寄贈された芹沢銈介の着物や屏風、板絵、ガラス絵など430点の多彩なコレクションを核に、当館所蔵作品を交えてご紹介します。
- 芹沢の得意とした「文字文」の着物やのれんなどの作品と、肉筆の書画、下図などを相互に鑑賞することでそのユニークな発想の原点をひもとき、人間国宝・芹沢銈介の新たな一面を探ります。
- 本展のキーワードは「模様」「もの」「旅」。英語タイトル「(Text)tiles」にもヒントが隠れています。(詳細はp.3→)

広報用図版 1



《型染伊呂波文六曲屏風》1958年

「り」には龍「く」には栗など「いろは～」それぞれの文字のモチーフが添えられている。

広報用図版 2



広報用図版 5



広報用図版 3



《新版絵本どんきほうて(別刷)

二 作男さんちよ従へ廻国の門出》1971年

広報用図版 4



《沖縄壺屋》1943年

《沖縄笠団扇文藍地木綿着尺》1960年

報道関係の方の
お問合せ先

東京国立近代美術館工芸館

展覧会担当/今井・成田 広報担当/高橋

Tel : 03-3211-7781 (工芸課直通)

※工芸館広報のメールアドレスが新しくなりました。

E-mail : koge-pr@momat.go.jp

掲載用お問合せ先

Tel : 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

公式HP

<http://www.momat.go.jp>

(上) 広報用図版 6 《文字文地白麻部屋着》1971年
(下) 広報用図版 7 《筍文茶地麻部屋着》1958年



展覧会について

芹沢銈介（1895—1984）は日本を代表する染色家であり、その評価は国内にとどまらず、生前、大成功を収めたパリ展をはじめ、アメリカ、イギリス、ロシアなどでも個展が開催されています。1956年、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定にあたって「型絵染」という概念を引き出した作風は、堅固な型と確かな構図に特徴があり、華やかな色、楽しい配色、晴れやかでありながら底に深さと静けさを見る…実はこれらは芹沢が紅型について語った言葉でしたが、ここに描述された様相はそのまま芹沢の作品に重なるようです。おそらくそれは染色の道を選ばせ、生涯憧れ続けた世界観を、芹沢が自らの仕事のなかで追求し、実証していったからではないでしょうか。

本展は2015年に金子量重氏からご寄贈いただいた芹沢作品430点を核として構成いたします。アジア民族造形研究の先達である金子氏の選択眼、そして芹沢との深い信頼関係が築き上げたこの貴重なコレクションは、屏風やのれん、型染本、カレンダー、装幀からスケッチ、下絵、本の割り付けイメージまで多種多彩です。

それらをじっくり味わっていただくために、本展覧会ではキーワードを3つご用意しました。「模様」「もの」「旅」——いずれも芹沢の主要なテーマです。しかし形式だけでなく、技法、年代、作域のいずれについても幅広い内容は、異なるイメージを結びつけたり、反対に寸断し、更新させたりするかもしれません。ちょうど「文字文」への取組みにおいて芹沢が文字の機能を解体し、新たな相を見せながらその本質へと向かったように、今回の展示をご覧になった皆さんが、芹沢のさまざまな側面と出会い、文脈を結びながら、それぞれの芹沢銈介像を描かれることを期待しています。

芹沢銈介 略年譜

- 1895 静岡市生まれ。旧姓・大石。
- 1916 東京高等工業学校（現・東京工業大学）図案科卒業。
- 1925 朝鮮京城（現・ソウル）および慶州を旅行。
船中で読んだ柳宗悦の論文が生涯の転機となる。
- 1928 大礼記念国産振興博覧会特設館の日本民藝館で
沖縄の民藝、とくに紅型に瞠目する。
- 1929 国画会にて《手描蠟伏杓子菜文藍地壁掛》がN氏賞を受賞。
- 1931 雑誌『工藝』の表紙（型染布）を担当。
- 1939 柳宗悦ほか民藝同人とともに沖縄滞在。
知念積秀、瀬名波良持に紅型の指導を受ける。
- 1945 空襲により工房と自宅焼失以後6年間にわたって寄寓生活。
型染カレンダーの制作開始。グリーティングカード、
団扇、燐票、書票など、小品を多数制作。
- 1951 蒲田に自宅と工房を建築。
- 1956 重要無形文化財「型絵染」の保持者に認定。
- 1957 鎌倉津村の農家を借りて仕事場とする。
- 1976 フランス政府招聘によりパリ・グランパレにて
大規模個展「SERIZAWA」開催。
- 1981 フランス芸術文化勲章（オフィシエ）受賞。
- 1984 逝去。（88歳）



広報用図版 8
《鏡に描いた自画像》
1971年



広報用図版 10
《民藝三尊図額》1955年
中央から左回りに、柳宗悦、
河井寛次郎、浜田庄司。

広報用図版 9
《津村小庵文藍地軸裂》
1967年
画面右側の家屋の中に、
外を眺める芹沢自身の姿が
描かれている。



寄贈者・金子量重（かねこかずしげ）氏
1925年横浜市生まれ。アジア民族造形研究所所長。
アジア民族造形研究の先達として世界各地で調査研究を行う。
著書多数。1980年刊行の『芹沢銈介全集』（全31巻）の編集委員。

開催概要

展覧会名	(日本語) 芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション (英語) (Text)tiles by SERIZAWA KEISUKE, from the Kaneko Kazushige Collection
会期	2016年3月5日(土)～5月8日(日)
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(3月21日、28日、4月4日、5月2日は開館)、3月22日(火)
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館工芸館
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1
観覧料	一般550円(350円) 大学生350円(150円) 高校生以下及び18歳未満、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。 *()内は20名以上の団体、およびキャンパスメンバーズ特典料金。いずれも消費税込。 *割引・無料には入館の際、学生証・運転免許証など年齢のわかるもの、障害者手帳をご提示ください。
イベント情報	◆ギャラリートーク：会場で、当館研究員が見どころをわかりやすく解説します。 3月6日(日)、4月17日(日) ◆タッチ&トーク：展覧会に関連する作品に触れて楽しむくさわってみよう>コーナーと会場トークで展覧会の魅力をご紹介します。 (会期中毎週水・土曜日) ※いずれも14:00～工芸館会場にて。(申込不要・参加無料(要観覧券))
掲載用お問い合わせ先	Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
公式HP	http://www.momat.go.jp

英文タイトル”(Text)tiles”のこと

本展のテーマのひとつは、いろは文に代表される「文字」、すなわち“text”です。それらを“tiles”(タイル)のように並べることで、意味をもつことばが生まれるように、本展でご紹介する作品ひとつひとつをつなぎ合わせ、新たな「芹沢像」が発見されることを示唆しています。また、“text”“tiles”をつなげて読むと布を意味する“textile”と同じ音になるという言葉遊びも含まれています。



(左) 広報用図版11《1968年のカレンダー(1月)》1967年
(右) 広報用図版12《型染紋紙》1965年



人間国宝・巨匠コーナー

会場の一部では、当館所蔵作品の中から、重要無形文化財保持者(人間国宝)を中心に、芹沢銈介に縁の深い作家や、展覧会に関連した作品をご紹介します。

工芸館

赤レンガが目印の工芸館の建物は1910(明治43年)に建てられた旧近衛師団司令部庁舎を保存活用したもので、1972年に重要文化財に指定されました。**竹橋、九段下各駅からの桜並木も彩りを添えてくれるお花見シーズン(3/23～4/10)、GW(4/29～5/8)は無休で開館します!**

(参考図版)



(参考図版)

鹿兒島寿蔵《紙塑人形 大森みやげ》
1958年 東京国立近代美術館

広報用図版 請求票

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当 行

発信日 年 月 日

<input checked="" type="checkbox"/>	No.	作品 (すべて芹沢銈介作・東京国立近代美術館蔵)
	1	《型染伊呂波文六曲屏風》1958年
	2	《型染伊呂波文六曲屏風》(部分)1958年
	3	《新版絵本どんきほうて(別刷) 二 作男さんちよ従へ廻国の門出》1971年
	4	《沖縄壺屋》1943年
	5	《沖縄笠団扇文藍地木綿着尺》1960年
	6	《文字文地白麻部屋着》1971年
	7	《筍文茶地麻部屋着》1958年
	8	《鏡に描いた自画像》1971年
	9	《津村小庵文藍地紬裂》1967年
	10	《民藝三尊図額》1955年
	11	《1968年のカレンダー(1月)》1967年
	12	《型染紋紙》1965年

- ・ご希望の図版の左枠内に✓を入れてFAXでお送りください。
- ・作品図版はJPEGデータをご用意しています。
- ・展覧会広報のみにご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- ・掲載見本を広報担当者へご寄贈ください。(Webサイトの場合は掲載時にお知らせ下さい)

ご担当者名：

E-mail：

貴社名：

出版物・放送番組・ウェブサイト名：

URL (http://www)

掲載予定号・発行日/放送・公開日時等：

電話番号：

()

Fax：

()

*展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券をご用意いたします。

希望しない/希望する (組 枚)

〒

チケット送付先：

【報道関係の方からの本資料に関するお問い合わせ先】
東京国立近代美術館工芸館 広報担当/高橋 TEL:03-3211-7781 (工芸課直通)
E-mail: koge-pr@momat.go.jp HP: http://www.momat.go.jp

※工芸館広報のメールアドレスが新しくなりました。